

鳥取大学研究成果リポジトリ

Tottori University research result repository

タイトル Title	鳥取県・島根県の動物相に関する文献目録 第8集 (2016年)
著者 Author(s)	TSURUSAKI, Nobuo; YODOE, Kenichiro
掲載誌・巻号・ページ Citation	山陰自然史研究 , 15 : 49 - 57
刊行日 Issue Date	2018-09-20
資源タイプ Resource Type	学術雑誌論文 / Journal Article
版区分 Resource Version	出版社版 / Publisher
権利 Rights	© 鳥取県生物学会 The Biological Society of Tottori
DOI	
URL	http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/6216

目録 List

鳥取県・島根県の動物相に関する
文献目録 第8集 (2016年)鶴崎展巨¹・淀江賢一郎²¹〒680-8551 鳥取市湖山町南4-101

鳥取大学地域学部棟内 農学部動物分類学研究室

¹E-mail: ntsuru@tottori-u.ac.jp²〒690-0862 松江比津が丘2-1-7²E-mail: shimane@sc4.so-net.ne.jp

¹Nobuo TSURUSAKI and ²Ken-ichiro YODOE (¹Laboratory of Zoological Systematics, Faculty of Agriculture, Tottori University, Tottori, 680-8551 Japan; ²Hizugaoka 2-1-7, Matsue, 690-0862 Japan): **Bibliography concerning fauna of Tottori and Shimane Prefectures, Honshu, Japan. No. 8 (2016).**

Abstract — This bibliography lists literature dealing with fauna and zoological records of the San'in District (Tottori and Shimane Prefectures) published in 2016. Some articles published before 2016 may be also included when they have not been covered in the previous bibliographical series.

Key words — bibliography, fauna, zoological records, Tottori, Shimane

キーワード — 島根県, 鳥取県, 動物相, 記録, 文献目録

本稿は鳥取県と島根県の動物相に関して2016年に出版された文献の注釈つきリストのである(前報までに掲載もれの2015年以前の文献も含む)。

文献入手または文献情報収集等にご助力をいただいた藤岡知夫, 有田 斉, 井上雅仁, 林 成多, 田村昭夫, 上村友久の諸氏に御礼申し上げます。

凡 例

採録範囲は, おもに鳥取県・島根県内の陸上域(沿岸の海域を含む)に生息する動物に関する記録を含む文献であるが, 本県に密接な関係があると思われるものは県外のものも対象としている。配布範囲が狭いなどで, 最初から正式公表を目的としたとは考えにくい記事(観察会で配布されるプリント, 内部的報告書, 大学のサークル・学校のク

ラブ等の部内機関誌に掲載されたもの)も原則として扱わない。

鳥取県内での初記録など動物相解明の点でとくに必要と思われるものを別として, 短報やそれに類した簡略化された記録(野鳥の出現情報など)も, 積極的には拾っていない。

配列は分類群ごとの(総合/哺乳類/鳥類/両生類・爬虫類/魚類/昆虫:総合/昆虫:トンボ目/昆虫:直翅系/昆虫:半翅目/昆虫:脈翅目/昆虫:鞘翅目/昆虫:双翅目/昆虫:膜翅目/昆虫:鱗翅目/クモガタ類・多足類/甲殻類/軟体動物/その他の無脊椎動物), 著者のアルファベット順である。どちらの県に関係するかは, 個々の文献の末尾に角かっこ([])内に記す。市販されているものについては価格を記した。スラッシュ(/)以下は要旨あるいはコメントである。

NT = 鶴崎展巨, KY = 淀江賢一郎。

【総 合】

林 成多・中野浩史・桑原友春(2016)出雲平野の河川・水路における水生生物相の調査(2013-2014)。ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 79-108。/出雲市の4水系で2013-2014年に調査。無脊椎動物80種, 脊椎動物37種を記録。外来種7種, 絶滅危惧種17種が含まれる。[島根県]

徳田 誠(2016)フィールドの生物学。植物をたくみに操る虫たち。虫こぶ形成昆虫の魅力。東海大学出版部(東京), 277 pp. ISBN: 978-4-486-02097-4。本体2000円。/タマバエを中心とする虫こぶ形成昆虫の分類, 系統, 生活史, 生態研究で多くの業績をあげている著者の研究遍歴。著者は島根県浜田市出身。中学2年のときに, 夏休みの自由研究でとりくんだ「藻類に対する生長阻害効果の研究」で県の科学作品展で受賞したこと, 浜田高校の生物部でおこなった水生昆虫の研究のことが書かれている。(NT) [島根県]

鶴崎展巨・淀江賢一郎(2016)鳥取県・島根県の動物相に関する文献目録。第6集(2014年)。山陰自然史研究 No. 12, pp. 29-38。[鳥取県・島根県]

鶴崎展巨・淀江賢一郎(2016)鳥取県・島根県の動物相に関する文献目録。第7集(2015年)。山陰自然史研究, No. 13, pp. 45-54。[鳥取県・島根県]

【哺乳類】

林 成多・片岡大輔・河本智宏・越山洋三・園田昌司・宮竹貴久(2016)島根県雲南市木次町ふるさと尺の内公園における哺乳類生息調査(2014年) — 特にイタチ科の種同定について。ホシザキグリーン財団研究報告,

- No. 19, pp. 257–267. /雲南市木次町ふるさと尺の内公園でセンサーカメラおよび糞のDNA分析により哺乳類を調査。センサーカメラでは哺乳類7種、DNA分析ではイタチ科3種を同定。[鳥根県]
- 川嶋淳史・永松 大 (2016) 鳥取県東部におけるシカの採食による植生の被害状況. 山陰自然史研究, No. 12, pp. 9–17. [鳥取県]
- 小林朋道・根本聡子 (2016) ユビナガコウモリ *Moniopterus fliginosus* における同種・異種および自己・同種他個体の臭いによる識別. 山陰自然史研究, No. 12, pp. 1–5. [鳥取県]
- 御厨正治 (1976) ニホンカワウソ雑記. 哺乳動物学雑誌, 6 (5/6): 214–217. /カワウソが1928年に保護獣になる以前の1923から1927年のカワウソの日本の都道府県別の農林省の狩猟統計の表が掲載されている。その中の1925年に鳥取県で1頭のカワウソの捕獲記録が含まれている。[鳥取県]
- 大畑純二 (2016) 2013年の豪雨水害とその後の災害復旧工事による川平廃坑のコウモリ越冬群への影響. 鳥根県立三瓶自然館研究報告, No.14, pp 1–7. /江津市川平廃坑が2013年8月の集中豪雨によって大きなダメージを受け、さらに災害復旧工事の悪影響が予想されたが、意外にもこれらの環境変化がコキクガシラコウモリとキクガシラコウモリの越冬数に目立った影響を与えなかった。[鳥根県]
- 大畑純二 (2016) 鳥根のモモジロコウモリとテングコウモリ. 鳥根県立三瓶自然館研究報告, No.14, pp. 19–26. /洞穴棲コウモリ・モモジロコウモリとテングコウモリ2種の分布と越冬、繁殖などについての覚書。[鳥根県]
- 清水善吉・栃本武良 (2016) 兵庫県朝来市におけるミズラモグラの記録. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 189–193. /兵庫県朝来市黒川からのミズラモグラの発見記録 (2014.2.25)。鳥取県でも見つかる本種の近県での記録としてここに含めた。[兵庫県]
- Shintaku, Y. & Motokawa, M. (2016) Geographic variation in skull morphology of the Large Japanese Field Mice, *Apodemus speciosus* (Rodentia: Muridae) revealed by geometric morphometric analysis. *Zoological Science*, 33: 132–145. /幾何計量形態学的分析によるアカネズミの頭骨形態の地理的変異。サンプルに鳥取県大山、隠岐島後、西ノ島、中ノ島、知夫里島、が含まれる。北海道と日本列島の周辺離島(佐渡、隠岐、対馬、伊豆諸島など)は頭骨サイズや下顎骨の形で本州・四国・九州の集団とは異なる性質を示し、これは祖先形質状態と推定された。知夫里島の集団は西ノ島や中ノ島の集団と比べ大きな頭骨をもつが、これはボトルネックでもたらされたのではないかとのこと。[鳥取県・鳥根県]
- 山崎安造 (2016) 鳥取砂丘のラクダ. 日本海新聞, 2016年1月17日(日曜日)朝刊 25面. /鳥取砂丘にいるラクダの由来についての投稿記事。鳥取砂丘のラクダは昭和35年に、筆者のご尊父、山崎二郎氏が外国から輸入したものと記述あり。山崎二郎氏は大阪の大学で法律を学んで、大蔵省にはいり、おもに税務署に勤務していたが、戦時中は陸軍省の文官として中国の北京に滞在した。ゴビ砂漠でラクダに出会い、フタコブラクダを鳥取砂丘にもってきたいと思ったとのこと。終戦後、大蔵省には復職せずに鳥取に戻った。当時、国交のなかったモンゴルとソ連の国境から輸入した。雌のフタコブラクダで名前はニーナ、フルシチョフ首相の奥さんの名前と同じだったとか。(NT) [鳥取県]

【鳥 類】

- 林 成多・野津登美子 (2016) 鳥根県邑南町におけるブッポウソウ巣箱内の昆虫遺骸調査 (2014年). ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 209–274. /ブッポウソウの巣箱内から回収された昆虫遺骸の2014年の調査。200個体以上の昆虫を発見。甲虫が多かった。個体数では多い順に大型アリ類、コアオハナムグリ、シロテンハナムグリなど。[鳥根県]
- 星野由美子 (2016) 2000年から2016年に三瓶山北麓で観察された鳥類. 鳥根県立三瓶自然館研究報告, No.14, pp. 47–55. / 82種。[鳥根県]
- 市橋直規・深谷 治・森 茂晃・江崎逸郎・岡田美耶 (2016) 隠岐諸島におけるミヤマホオジロ *Emberiza elegans* の繁殖. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 195–199. /日本では冬鳥のミヤマホオジロの隠岐諸島西ノ島および中ノ島での繁殖確認。[鳥根県]
- 森 茂晃・北脇 努 (2016) 松江市で保護されたヒメクロウミツバメの記録. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, p. 200. /松江市灘町で保護されたヒメクロウミツバメの記録。[鳥根県]
- 下田康生 (2016) 湖山池のオオワシの記録. 銀杏羽, No. 144, pp. 9–12. /湖山池で毎年1,2羽記録されているオオワシの写真からの個体識別の試み。[鳥取県]

【両生類・爬虫類】

- 藤田宏之・岩田貴之・寺岡誠二 (2016) 鳥根県東部におけるカミサンショウウオ「高地型」卵等の乱獲被害事例. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 253–259. /鳥根県出雲町のカミサンショウウオ「高

地型」生息地での卵のう乱獲被害の報告。[島根県]

河野重範・高橋亮雄・渡辺克典 (2016) 2015年冬に島根半島へ漂着したオサガメの記録. 島根県立三瓶自然館研究報告, No.14, pp. 57-60. / 2015年2月7日松江市美保関町笠浦の海岸で発見。[島根県]

森脇晋平 (2016) 島根県邑南町の水田周辺に生息するアカハライモリの生態学梯調査研究 (1) 水田における繁殖期の日周活動と天候との関係. 島根県立三瓶自然館研究報告, No.14, pp. 31-35. [島根県]

【魚 類】

桑原正樹 (2016) 島根県におけるオオクチユゴイの新記録. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 1-3. / スズキ目ユゴイ科の魚類であるオオクチユゴイの記録, 2013年7月20日, 斐伊川水系宍道湖に流入する忌部川, 対馬暖流によって運ばれた個体に由来すると推定。島根県初記録。[島根県]

桑原正樹 (2016) 島根県益田市市内のため池におけるシンジコハゼの記録. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 9-12. / 環境省版および島根県版のレッドリストで絶滅危惧II類のシンジコハゼを益田市の大ダライ池にて確認。[島根県]

曾田一志・福井克也・南里敬弘・若林英人 (2016) 島根県東部におけるゴギ生息状況調査 (2014年). ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 155-163. / 2014年の島根県東部でのゴギの生息状況調査。16溪流中10溪流でゴギの生息を確認。[島根県]

【昆虫：総合】

林 成多・門脇久志 (2016) 隠岐諸島産水生昆虫目録 (1930-2015). ホシザキグリーン財団研究報告特別号, No. 17, 98 pp. / 隠岐諸島産の水生昆虫のリスト。9目78科317種。隠岐をタイプ産地とする種は2種 (オキミヤマイトビケラとサンインヒメツヤドロムシ) あるが, 現在でも隠岐以外からは知られていないのは, オキミヤマイトビケラ *Plectrocnemia okiensis* Kobayashi 1987, 1種のみとのこと。[島根県]

林 成多・野津登美子 (2016) 島根県邑南町におけるブッポウソウ巣箱内の昆虫遺骸調査 (2014年). ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 209-274. / ブッポウソウの巣箱内から回収された昆虫遺骸の2014年の調査。200個体以上の昆虫を発見。甲虫が多かった。個体数では多い順に大型アリ類, コアオハナムグリ, シロテンハナムグリなど。[島根県]

【昆虫：トンボ目】

北山 拓 (2016) スジボソギンヤンマを島根県から初記録. すかしば. No. 63, pp. 1-2. / ギンヤンマとクロスジギンヤンマの種間雑種であるスジボソギンヤンマ3♂の記録 (大田市五十猛町, 2015.8.23 ~ 9.2)。島根県では新記録とか。[島根県]

北山 拓 (2016) 2015年の島根県・鳥取県における飛来アカトンボの記録. すかしば, No. 63, pp. 3-4. / 2015年の島根県東部 (安来市・松江市) と鳥取県西部 (境港市, 米子市) での大陸からの飛来種スナアカネとオナガアカネの記録. オナガアカネ117♂にマーキングして, 10♂を再捕獲できたとか。移動力の高そうな昆虫としては異例に大きい再捕獲率のように思える。[島根県]

北山 拓・大浜祥治 (2016) 隠岐・島後からオオアオイトトンボを初記録. すかしば, No. 63, p. 38. / 隠岐島後では未記録だったオオアオイトトンボの初記録 (油井ノ池, 西村大平田溜池, 2015年)。[島根県]

皆木宏明・三島秀夫 (2016) 浜田市で確認されたモートンイトトンボ (トンボ目イトトンボ科) について. 島根県立三瓶自然館研究報告, No.14, pp. 71-72. / 浜田市金城町下来原。ハッチョウトンボ保護地区で発見。[島根県]

鶴崎展巨・尹 振国・岩本真菜 (2016) 湖山池におけるウチワヤンマ生息最終年の羽化. 山陰自然史研究, No. 13, pp. 37-44. [鳥取県]

尹 振国・鶴崎展巨 (2016) 多鯰ヶ池と鳥取市大塚のため池のトンボ相. 山陰自然史研究, No. 13, pp. 25-35. [鳥取県]

【昆虫：直翅系】

大浜祥治 (2016) 隠岐・島後でコバネイナゴを確認. すかしば, No. 63, p. 21. / 隠岐諸島から標本確認がなかったコバネイナゴの新しい記録 (隠岐の島町重栖, 3 ex., 2015.8.29) と最近記録のなかったツマグロイナゴの記録 (隠岐の島町山田, 1ex., 2015.8.30). [島根県]

皆木宏明 (2016) 島根県初記録となるウスヒラタゴキブリ (ゴキブリ目チャバネゴキブリ科) について. 島根県立三瓶自然館研究報告, No.14, pp. 73-74. / 江津市波子町, 2015年8 ~ 9月に複数を集。島根県内のゴキブリ目は計9種になる。[島根県]

【昆虫：半翅目】

林 成多 (2016) 山陰地方産水生昆虫図鑑IV. 半翅目・甲

虫類(補遺) ホシザキグリーン財団研究報告特別号, No. 19, pp. 1-86. / 鳥根県と鳥取県で確認されている水生半翅目44種のリストと写真つき解説。山陰地方産水生昆虫図鑑I~IIIで掲載できなかった甲虫数種も掲載。[鳥根県・鳥取県]

Hosokawa, T., Ishii, Y., Nikoh, N., Fujie, M., Notoh, N., & Fukatsu, T. (2016) Obligate bacterial mutualists evolving from environmental bacteria in natural insect populations. *Nature Microbiology*, 1 (15011): 1-7. / チャバネアオカメムシの中腸盲嚢内にある共生細菌の多型の分布調査が含まれる。九州本土以北の共生細菌はすべてA型のみ。屋久島以南の南西諸島にはA型は見られず、B型が優占的であるが、それ以外にC~Fまでのさらに異なる型が集団内多型として(一部には1個体内で2タイプの細菌をもつものもあり)保有されていた。このパターンは共生細菌を獲得した歴史が浅く、また、しばしば共生細菌の置換が起きていることを示すという。鳥取市の集団も調査されているが他の本州各地と同様A型であった。[鳥取県]

大浜祥治 (2016) 隠岐・島前で採集した陸生カメムシ類メモ。すかしば, No. 63, pp. 11-13. / 隠岐島前からの陸生カメムシ24種の記録。隠岐初記録1種(クロトビイロサシガメ)と島前初記録が5種。[鳥根県]

田村昭夫 (2016) 倉吉市でキマダラカメムシを採集。ゆらぎあ, No. 34, p. 15. / 外来種で鳥取県では2014年に伯耆溝口駅で、2015年に鳥取市から記録されたキマダラカメムシの記録: 倉吉市 (2016.9.16) [鳥取県]

田村昭夫 (2016) ヒメハルゼミとハルゼミの声を倉吉倅谷で確認。ゆらぎあ, No. 34, p.16. / 倉吉市からは初めてとなる、ヒメハルゼミの確認(倉吉市倅谷大原林道入口付近, 2016.7.5-11)。当地ではハルゼミも確認(2016.6.3)。[鳥取県]

田中宏卓 (2016) 鳥根県隠岐諸島隠岐の島町で採集されたカイガラムシ上科昆虫(予報) ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 217-219. / 隠岐の島町(島後)からカイガラムシ上科の3科10種を記録。[鳥根県]

【昆虫：脈翅目】

鶴崎展巨・中山 桂・板井竜二郎・井上健人・柏木峻秀 (2016) 山陰海岸ジオパークエリア内における海浜性ウスバカゲロウ類の分布。山陰自然史研究, No. 13, pp. 11-24. [鳥取県]

【昆虫：鞘翅目】

林 成多 (2016) ヒメドロムシ科幼虫の微細構造の観察1.

ハバビロドロムシとヒメハバビロドロムシ。ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 275-287. / 鳥取県琴浦町で採集したハバビロドロムシ, 琴浦町と群馬県高崎市で採集したヒメハバビロドロムシを使用して幼虫の微細構造を観察。[鳥取県]

林 成多 (2016) 山陰地方産水生昆虫図鑑III 甲虫類(3)。ホシザキグリーン財団研究報告特別号, No. 18, pp. 1-113. / 隠岐諸島を含めた山陰地方に生息する甲虫類の図鑑の第3集。マルトゲムシ上科(旧ドロムシ上科)とハムシ科, ゾウムシ上科の60種を生態写真・標本写真つきで掲載。[鳥根県]

林 成多 (2016) 山陰地方産水生昆虫図鑑IV. 半翅目・甲虫類(補遺) ホシザキグリーン財団研究報告特別号, No. 19, pp. 1-86. / 鳥根県と鳥取県で確認されている水生半翅目44種のリストと写真つき解説。山陰地方産水生昆虫図鑑I~IIIで掲載できなかった甲虫数種も掲載。[鳥根県・鳥取県]

林 成多・吉富博之 (2016) 鳥根県から発見されたカツラネクイハムシ *Donacia katsurai* Kimoto と日本国内における現状。ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 149-153. / これまで山陰地方からは記録のなかったカツラネクイハムシの鳥根県からの初記録。邑智郡川本町。[鳥根県]

日暮卓志 (2016) 岩美町でのゲンゴロウの採集記録。すかしば, No. 63, p. 10. / 鳥取県岩美町からのゲンゴロウ (*Cybister japonicus*) の追加記録: 岩美町白地 (1996.8.4, 1♂) 国道9号線脇の水銀灯下から。[鳥取県]

日暮卓志 (2016) 大山町で採集したヒメコブスジコガネの記録。すかしば, No. 63, p. 10. / 鳥取県では記録の少ないヒメコブスジコガネの大山町羽田井一息坂峠からの記録 (1997.4.17, 3ex.)。[鳥取県]

井ノ上 健 (2016) 訂正 カミキリムシの記録。ゆらぎあ, No. 34, p. 27. / クロホソバコバネカミキリ(大山二ノ沢, 1♂, 2010.8.14; 江府町鍵掛峠 11♂ 2010.8.1)。オオシロカミキリ(倉吉市関金町泰久寺大山池 1♂, 2010.8.14)。[鳥取県]

小林佳崇 (2015) ルイヨウマダラテントウの鳥取県氷ノ山からの記録。昆虫ニューシリーズ, No. 18, pp. 104-105. / ルイヨウマダラテントウはルイヨウボタンを食草とするコブオオニジュウヤホシテントウ系の種。これまで中部地方以東の本州と北海道の一部でしか知られていなかったが、氷ノ山から生息が確認された。私はこの類の染色体研究にかかわったことがあり、鳥取県でもルイヨウボタンを見るときには気をつけていたが、これまで気づけなかった。2016年に県外の本類の研究者が小林氏の案内で氷ノ山の生息地を確認

- に来鳥した折りに、私も同行させていただいたが、けっこうな密度で生息していた。氷ノ山以外の県内のルイヨウボタン生育地ではルイヨウマダラはまだ確認されていないようである。(NT) [鳥取県]
- 國本洸紀 (2016) コガタノゲンゴロウ上翅の色彩変異. ゆらぎあ, No. 34, p. 26. /コガタノゲンゴロウの色彩変異型(上翅が異常に赤い) 1 個体の記録 (541個体中). 鳥取県中部 (2016.9.9) [鳥取県]
- 松井悠樹・山岸瑞樹 (2016) 鳥取県東部におけるクロカタビロオサムシの記録. ゆらぎあ, No. 34, p. 14. /クロカタビロオサムシの記録: 鳥取市樗谷公園, 国府町河合谷高原, 湖山町鳥取大学構内. [鳥取県]
- 三島秀夫 (2016) 島根県内で採集されたガ数種について. 島根県立三瓶自然館研究報告, No.14, pp. 63-69. /三瓶自然館で保管している標本. 多くを神保宇嗣氏の同意による。マダラカヒメハマキなど島根県初記録のものが多い. [島根県]
- 長瀬 翔 (2016) クチキクシヒゲムシを奥出雲町で拾う. すかしば, No. 63, p. 22. /記録の少ないクチキクシヒゲムシの記録(奥出雲町八川, 1♀, 2015.6.10). [島根県]
- 長瀬 翔 (2016) 島根県内で初記録のヤマトオサムシダマシ. 島根県立三瓶自然館研究報告, No.14, pp. 61. /採集地は公表されていない. [鳥取県]
- 野津幸夫 (2016) ヘリトゲコブスジコガネを日南町印賀でタヌキ糞から採集. ゆらぎあ, No. 34, p. 19. /鳥取県未記録と考えられるヘリトゲコブスジコガネの記録(日南町印賀立石, 2016.4.5) [鳥取県]
- 野津幸夫 (2016) スゲハムシの採集記録. ゆらぎあ, No. 34, pp. 19-20. /キヌツヤミズクサハムシ(スゲハムシ)の日南町の記録: 砥波, 上阿毘縁, 神戸上). 2014-2016年. [鳥取県]
- 大浜祥治 (2016) 松江市でコガタノゲンゴロウを採集. すかしば. No. 63, p. 21. /2000年以降, 島根県での記録が増えているコガタノゲンゴロウの記録(松江市大庭町の2つの池, 2015年) [鳥取県]
- 大浜祥治 (2016) 隠岐で採集した甲虫類メモ. すかしば, No. 63, pp. 29-31. /20科86種の報告, 隠岐諸島初記録が5種(オオマルガタゴミムシ, キボシアオゴミムシ, ヒメキベリアオゴミムシ, コフキコガネ, ヒメツチハンミョウ), 島前初記録が10種. [鳥取県]
- 高桑正敏・門脇久志・福井修二・小林敏男 (2016) 島根県と鳥取県西南部のセダカコブヤハズカミキリ相. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 289-299. /島根県と鳥取県西南部の各地のセダカコブヤハズカミキリの形態の詳細な記述. [鳥取県・鳥取県]
- 田村昭夫 (2016) オオキイロコガネを倉吉市で採集. ゆらぎあ, No. 34, p. 20. /鳥取県中部では初めてのオオキイロコガネの記録: 倉吉市宮川町 (2016.4.17, 1♂) [鳥取県]
- 田村昭夫 (2016) オオキイロコガネを倉吉市で採集. ゆらぎあ, No. 34, p. 20. /鳥取県中部では初めてのオオキイロコガネの記録: 倉吉市宮川町 (2016.4.17, 1♂), [鳥取県]
- 鶴崎展巨・岡田 叡・杳野高也・深澤豊武・湯本祥平 (2016) 鳥取砂丘におけるエリザハンミョウの個体数推定 (2015年). 山陰自然史研究, No. 13, pp. 1-10. [鳥取県]
- 吉富博之・林 成多 (2016) クロジュウニホシテントウを島根県で採集. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, p. 128. /島根県雲南市掛合町八重滝で採集された島根県新記録のクロジュウニホシテントウの記録. [鳥取県]
- 吉富博之・林 成多 (2016) ツツハムシ類2種の島根県における記録. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, p. 180. /島根県新記録のウスグロチビツツハムシとジュウシホシツツハムシ(隠岐島後から既記録, 誌島根県本土からは初記録)の記録. [鳥取県]
- 吉富博之・林 成多 (2016) 島根県と鳥取県のメダカハネカクシ. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 209-216. /島根県と鳥取県のメダカハネカクシ類(ハネカクシ科)の14種の記録. 4種は島根県新記録. 文献記録も整理した結果, 既記録種は島根県で10種, 鳥取県は16種となった. 今回記録の14種は標本写真を掲載. [鳥取県・鳥取県]
- 吉富博之・林 成多 (2016) ウメヤルリミズギワゴミムシの島根県における記録. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, p. 228. /中国地方からは未記録だったウメヤルリミズギワゴミムシを島根県匹見町から記録. [鳥取県]

【昆虫：ネジレバネ目】

- 前田泰生 (2016) スズバチネジレバネの奇妙な変態と繁殖. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 129-137. /総説で記録は含まれていない。

【昆虫：双翅目】

- 林 成多 (2016) 隠岐島前で採集したブユ科幼虫. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, p. 220. /知夫里島からクジツノマブユ, 中ノ島からミエツノマユブユ, 西ノ島からアシマダラブユの3種の記録. [鳥取県]
- 林 成多 (2016) 島根県産ナガレアブ科の記録. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 13-16. /幼虫が

水生のナガレアブ科4種を島根県から確認。[島根県]
大畑純二 (2016) アメリカミズアブとシオヤムシヒキの蛹化。島根県立三瓶自然館研究報告, No.14, pp 37-41。
[島根県]

【昆虫：膜翅目】

- Adhikari, R. D., 前田泰生・泉 洋平・宮永龍一 (2016) 閉鎖環境下におけるケブカハナバチの営巣活動。昆虫ニューシリーズ, 19, pp. 86-93. /ケブカハナバチのビニールハウス内での営巣活動の調査。出所は出雲市愛宕山公園で2010年4月6日に越冬巣を発掘して採集した個体。[島根県]
- 林 成多 (2016) 出雲市浜山公園でクロナガアリを採集。すかしば. No. 63, p. 20. /島根県では記録がなかったクロナガアリの記録。出雲市浜山公園 (2015.9.23, 5ワーカー) [島根県]
- 林 成多 (2016) 出雲市平田町でビラタウロコアリを採集。すかしば. No. 63, p. 20. /島根県から未記録のヒラタウロコアリの記録。出雲市平田町愛宕山公園 (2016.1.10, 複数頭)。[島根県]
- 一澤 圭・亀山 剛 (2016) 特定外来生物アルゼンチアリの鳥取県内での初記録。山陰自然史研究, No. 12, pp. 20-21. [鳥取県]
- 野津幸夫 (2016) チャイロスズメバチを日南町砥波で撮影。ゆらぎあ, No. 34, pp. 16-17. /鳥取県ではもっとも西の記録となるチャイロスズメバチの記録 (日南町砥波, 1ex., 2016.5.21) [鳥取県]
- 野津幸夫 (2016) 伯耆大山からホソアリバチを記録。ゆらぎあ, No. 34, pp. 17-18. /ホソアリバチの採集記録 (大山横手道, 2016.9.3日, 1♀)。[鳥取県]
- 吉田 亮・前田泰生 (2016) マメコバチ用新人工巢の適性。ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 25-34. /リンゴの送粉昆虫として利用されているマメコバチの人口巢の適性確認のため, 1996年は鳥取県関金町の泰久寺の丘陵地で, 1997年は島根県安来市吉佐町関金町の2カ所に設置して調べたもの。天然の葎筒巢には及ばなかったが, 単独使用では問題ない。[島根県]

【昆虫：鱗翅類目】

- 有田 斉・前田善広 (2006) 珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写真およびデータベース (13) シジミチョウ科 (10) . キリシマミドリシジミ・ヒサマツミドリシジミ・アイノミドリシジミ・メスアカミドリシジミ (増補改訂版). 72 pp. NRC出版. /キリシマミドリシジミ (八東町

才代, 船岡町大江, 用瀬町籠山, 鳥取市岩坪, 鹿野町鷲峰山, 三朝町小鹿溪, 赤崎町船上山, 溝口町大内), ヒサマツミドリシジミ (鳥取市久松山, 佐治村山王谷, 大山町二ノ沢), アイノミドリシジミ (国府町河合谷, 佐治村山王谷, 智頭町沖ノ山, 若桜町氷ノ山, 大山町南光河原, 溝口町横手道) など重要な記録標本が多く含まれている。[鳥取県・島根県]

- 有田 斉・前田善広 (2006) 珠玉の標本箱 日本産蝶類標本写真およびデータベース (14) ジャノメチョウ亜科 (1). ヒメヒカゲ・シロオビヒメヒカゲ. 44 pp. NRC出版. /ヒメヒカゲ (溝口町榊水高原, 溝口町福永原, 三朝町福本, 三朝町若杉山, 智頭町牛臥山, 智頭町籠山) など多くが絶滅産地となっている。[鳥取県・島根県]
- バタフライ・サイエンス編集部 (2016) 林慶氏の遺産2題. バタフライ・サイエンス, No. 6: 37. /林慶氏採集になる鳥取県大山産のヒョウモンモドキ標本の紹介。1♂, 1935年7月14日。標本は中村英夫氏が所蔵している。[鳥取県]

- 藤岡知夫 (2016) 藤岡知夫蝶類コレクションリスト4アゲハチョウ科2. 150 pp. 北川朝生編, 日本蝶類研究所発行. /カラスアゲハ1723, ミヤマカラスアゲハ1378, ナガサキアゲハ690, ジャコウアゲハ996, オナシアゲハ155, コモンタイマイ192, 合計5134個体の標本箱写真とラベルデータ。鳥取県産, 島根県産ともに多く含まれている。[鳥取県・島根県]

- 藤岡知夫 (2016) 藤岡知夫蝶類コレクションリスト5稀少種. 170 pp. 北川朝生編, 日本蝶類研究所発行. /クモマツマキチョウ, ミヤマシロチョウ, ルーミスジミ374, ベニモンカラスシジミ, リンゴシジミ, シルビアシジミ867, タイワンツバメシジミ, オガサワラシジミ, ゴイシツバメシジミ, オオルリシジミ, コヒョウモンモドキ, ヒョウモンモドキ661, ウスイロヒョウモンモドキ555, オオウラギンヒョウモン597, オオイチモンジ, ヒメヒカゲ3651, クロヒカゲモドキ, チャマダラセセリの合計13602個体の標本箱写真とラベルデータ。個体数をあげた各種には多くの鳥取県産, 島根県産が含まれている。すでに絶滅した産地が多い。なお, ヒョウモンモドキ広島県道後山1973年7月7日1♀の標本は採集者名が入ってないが筆者の採集品である。この年以降には採集できず絶滅していると思われる。ラベルは道後山となっていたようだが「庄原市西城町三坂」が正しい。(KY) [鳥取県・島根県]

- 藤岡知夫 (2016) 藤岡知夫蝶類コレクションリスト6タテハチョウ科1. 170 pp. 北川朝生編, 日本蝶類研究所発行. /スミナガシ, ミスジチョウ, オオミスジ, ホシミスジ1617, フタスジチョウ, コミスジ, イチモンジチョウ1828, アサマイチモンジ466, ゴマダラチ

- ウ675, アカホシゴマダラ, コムラサキ, オオムラサキ989, 合計13008個体の標本箱写真とラベルデータ。個体数をあげた各種には多くの鳥取県産, 島根県産が含まれている。[鳥取県・島根県]
- 筆谷憲一 (2016) 蝶たちとの出会いを求めて—庭で出会った蝶たち—。すかしば, No. 63, pp. 14–17. / 2005–2015年に松江市郊外の住宅地のご自宅で出会ったチョウの写真と記録。27種。[島根県]
- 広畑政己 (2016) 蝶の異常型3. ゆずりは, No.70: 47–51. / ウラキンシジミ (aikio型, 大山), ウスイロオナガシジミ (後翅橙色紋が黒紋に置き換わっている, 大山), ツバメシジミ (裏面の黒斑が大きく鮮明に出現, 松江市島根町加賀)。[鳥取県・島根県]
- 生田 敬 (2016) 鳥取県内におけるオオムラサキの分布。ゆらぎあ, No. 34, pp. 6–7. / 鳥取県内の幼虫と成虫の探索によるオオムラサキの分布調査の結果報告。鳥取県内での分布は局所的。久松山の記録あり。[鳥取県]
- 木村富至 (2016) 石川県能登半島産と日本各地産シルビアシジミの比較検討及び1新亜種の記載。バタフライ・サイエンス, No.4, pp. 2–33. / 能登半島産のシルビアシジミを *Zizina emelina terukoae* Kimura として新亜種記載。比較標本に鳥取県産13♂8♀, 島根県産8♂5♀が使われている。また隠岐島産には能登半島産と同様に秋季の幼虫が衝撃によって落下しにくいという記述もある。この幼虫の生態の違いは亜種区分には利用できないと思われる。(KY) [鳥取県・島根県]
- 國本洸紀 (2016) ミスジチョウの分布確認の記録。ゆらぎあ, No. 34, p. 26. / 鳥取県では記録の少ないミスジチョウであるが, 倉吉市打吹公園では毎年目撃または採集されている。これまで幼虫が未確認であったが, 越冬幼虫がイロハカエデ上で確認された(2016.1.31)。[鳥取県]
- 前田侑大・杉浦真治 (2016) 隠岐諸島におけるクワゴマダラヒトリ幼虫の天敵昆虫。ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 177–179. / 隠岐諸島中ノ島で発生していたクワゴマダラヒトリの捕食天敵としてオオヨツアナアトキリゴミムシと捕食寄生者としてギンケハラボソコマユバチを報告。[島根県]
- 松田裕一 (2016) 倉吉市でミスジチョウを採集。ゆらぎあ, No. 34, pp. 22–23. / 鳥取県からの生息情報の少ないミスジチョウの記録; 倉吉市悴谷大原林道 (1♂, 2016.5.31) [鳥取県]
- 松井悠樹 (2016) 鳥取県東部のフユシヤク類。ゆらぎあ, No. 34, p. 13. / 鳥取県からの新たに6種のフユシヤクの記録。シロフフユエダシヤク (鳥取市若葉台), ウススジフユエダシヤク (鳥取市天神町, 香取), チャオビフユエダシヤク (鳥取市樗谷公園), ホソウスバフユエダシヤク (樗谷公園), ナミスジフユナミシヤク (樗谷公園), ヒメクロオビフユナミシヤク (若狭町広留野大鹿滝駐車場)。ヒメクロオビフユナミシヤクはブナ帯生息で, 鳥取県からはおそらく初記録という。[鳥取県]
- 松井悠樹・長瀬 翔 (2016) 出雲市でオナガミズアオを採集。すかしば, No. 63, p. 13. / オナガミズアオの出雲市芦渡町からの記録 (1♂, 2015.6.11)。[島根県]
- 松井悠樹・山岸瑞樹 (2016) 鳥取県東部におけるクロカタビロオサムシの記録。ゆらぎあ, No. 34, p. 14. / クロカタビロオサムシの記録: 鳥取市樗谷公園, 国府町河合谷高原, 湖山町鳥取大学構内。[鳥取県]
- 三島昭一 (2016) 3月にムラサキツバメ越冬後個体を撮影する。すかしば, No. 63, p. 24. / これまで島根県での越冬個体は確認されていなかったムラサキツバメの越冬後個体の確認(出雲市斐川町神庭荒神谷椿公園, 1♀, 2015.3.29)。[島根県]
- 三島昭一 (2016) アゲハとキアゲハの顕著な黒化型。すかしば, No. 63, p. 24. / 隠岐知夫里島からのアゲハの黒化型 (2014.6.22) と出雲市小津町のキアゲハの黒化した個体 (2015.9.3)。
- 三島昭一 (2016) 島根半島でアカシジミを採集する。すかしば, No. 63, p. 25. / ねらっても採れない平地性ゼフィルスアカシジミの島根県の記録 (出雲市大社町弥山山頂尾根 (2015.5.31) と林木町鼻高山山麓 (2013.6.9); 安来市広瀬町松山山頂 (2015.6.6))。[島根県]
- 三島昭一 (2016) ゴマシジミ異常型を奥出雲町で採集する。すかしば, No. 63, p. 25. / 奥出雲町大馬木 (2015.8.16)。裏面ごま模様が消失した個体。[島根県]
- 三島昭一 (2016) 柿木村最後のギフチョウと弥栄村ギフチョウ異常型。すかしば, No. 63, p. 26. / 柿木村白谷 (2008.4.6) と弥栄村栃木 (2011.4.11) [島根県]
- 三島昭一 (2016) 2015年島根県におけるアサギマダラ移動情報。すかしば, No. 63, pp. 27–28. / 石川県白山市→江津市, 出雲市→大分県由布市, 下関市→江津市の移動例の紹介。[島根県]
- 法本智明 (2016) ウスキシロチョウを目撃。ゆらぎあ, No. 34, p. 25. / 2016年8月7日, 米子市淀江町富繁で雌と思われるウスキシロチョウを目撃。飛び方は大きさと本種と考えられたとのこと。間違いがなければ鳥取県では初めての本種の迷チョウ記録。採集または撮影ができなかったのが残念である。[鳥取県]
- 野津幸夫 (2016) フキの花に来ていたルリイロスカシクロバを安来市伯太町で採集。ゆらぎあ, No. 34, p. 24. / 産地が局地的といわれるルリイロスカシクロバの採集記録 (島根県安来市伯太町上小竹: 1♂, 2016.4.6)。

[島根県]

- 能美 豪 (2016) 大万木山の蛾. すかしば, No. 63, pp. 7-9. / 2015年に島根県飯南町大万木山で採集されたガのうち興味深い12種の記録. [島根県]
- 能美 豪 (2016) シンジュキノカワガを大東町で採集. すかしば No. 63, p. 22. / 雲南市大東町飯田 (2015.10.13) [島根県]
- 小椋 隆 (2016) 大山におけるヒサマツミドリシジミの採集記録. ゆらぎあ, No. 34, p. 22. / ヒサマツミドリシジミの記録 (大山鍵掛峠2013.8.11, 1♀). [鳥取県]
- 大屋厚夫 (2016) アサギマダラの生態. バタフライ・サイエンス, No. 6: 2-5. / 2013年浜田市三階山で, 福島県裏磐梯デコ平から放たれたマーキング個体が70日かけて800 km南下し佐和洋亮により再確認された (裏磐梯2013.8.11→浜田市2013.10.19). 山陰側の南下ルートとして重要. [島根県]
- 坂田国嗣 (2016) アオスジアゲハの水滴が2つの異常型を撮影. すかしば, No. 63, p. 23. / 奥出雲町内谷 (2015.5.22) [島根県]
- 阪上洗多・杉浦真治 (2016) 隠岐諸島におけるトベラササベリガの記録. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 181-182. / 本州日本海側からは知られていなかったトベラササベリガを隠岐西ノ島のトベラから記録. [島根県]
- 田村昭夫 (2016) メスグロヒョウモンを倉吉市で採集. ゆらぎあ, No. 34, pp. 22-23. / 鳥取県RDB絶滅危惧I類のメスグロヒョウモンの記録 (倉吉市俣谷大谷林道. 2016.7.11.1♀). [鳥取県]
- 田村昭夫 (2016) イボタガを倉吉市打吹公園で採集. ゆらぎあ, No. 34, pp. 24-25. / イボタガの記録 (倉吉市打吹公園: 1♂, 2016.4.18). [鳥取県]
- 田村昭夫 (2016) ウラナミシジミを12月に目撃. ゆらぎあ, No. 34, p. 27. 倉吉市宮川町からのウラナミシジミの12月目撃記録 (2016.12.3, 1♂) [鳥取県]
- 田村昭夫 (2016) キアゲハ, ルーを食す. ゆらぎあ, No. 34, p. 21. / 倉吉市宮川町の自宅で育てているミカン科の植物であるルー (ヘンルーダ) にキアゲハ (ふつうはセリ科が食草) の幼虫がついていたという報告 (2016.10.24). [鳥取県]
- 田村昭夫 (2016) ムラサキツバメを倉吉市で採集. ゆらぎあ, No. 34, p. 21. / 鳥取県中部では2例目になるというムラサキツバメの報告 (倉吉市宮川町, 2016.8.18, 1♀) [鳥取県]
- 田村昭夫・各務一夫・谷田昌也・松井悠樹・宮野昭彦・矢野重明・山本千里 (2016) 2016年鳥取六虫会 (第31回六虫会) で採集した蛾類. ゆらぎあ, No. 34, pp. 1-6. / 2016年9月3日に氷ノ山で採集されたガ類103種の

記録. 記録の少ない種として, ウスキマダラキバガ, ウスムラサキヨトウ, クロビロードヨトウ (鳥取県RDB準絶滅危惧) について写真とノートがある. [鳥取県]

- 田村昭夫・森田隆子・栢田絵梨子 (2016) 実物標本を使った図鑑指導. ゆらぎあ, No. 34, pp. 9-12. / クリスタルボックスにいったキタキチョウ, ツマグロキチョウ, モンキチョウの雄と雌の表標本と使った小学3年生への同定と図鑑の使い方の授業の記録. 実物を使うことの教育上の重要性についてふれられている. 裏面からもみやすいクリスタルボックスの使用が面白い. [鳥取県]
- 澁江賢一郎 (2016) たいへんに珍しいクロヒカゲ *Lethediana* の標本2例 (隠岐とロシア). すかしば, No. 63, pp. 18-19. / 隠岐諸島ではきわめて記録の乏しいクロヒカゲの新しい記録. 西郷町今津隠岐空港) 1♀, 1989.8.13, 伊藤國彦氏採集). 記録の乏しいロシアでの記録も. [島根県]
- 澁江賢一郎・後藤和夫・難波通孝 (2016) 中国地方におけるチョウの分布拡大. 「環境エコ選書12チョウの分布拡大」: 272-292. (編集: 井上大成・石井実), 北隆館. / ウスバシロチョウ, ムラサキツバメ, イシガケチョウ, クロコノマチョウ, クロセセリ, クロマダラソテツシジミの6種について鳥取県と島根県における分布拡大状況を報告. [鳥取県・島根県]
- 吉富博之・林 成多・橋本里志 (2016) 中国地方のコバネガ. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 221-227. / 広島県と島根県の新たな採集記録をもとにジャゴケを食草とするコバネガ科3種 (サンダンキョウヒロコバネ, ニッポンヒロコバネ, ムモンコバネ) の記録と分布の考察. これらは中国市地方で異所的に分布する. サンダンキョウヒロコバネは大田市付近以西 (ほぼ旧石見国), ニッポンヒロコバネはそれ以东 (ほぼ旧出雲国) に分布. Imadaら (2011) による分子系統学的研究によると, この2種はここで分化したのではなく, 別のところで異所的に分化したものが現在ここで分布域を接している状況と考えられるという. [島根県]

【クモガタ類・多足類】

- 馬場友希 (2016) 島根県で採集されたクモ. Kishidaia (東京蜘蛛談話会誌), No. 108, pp. 50-52. / 島根県各地で2015年8月3~5日に採集されたクモ26種の記録. マルムネヒザグモ, デーニッツサラグモ, ヨツボシヒメアシナガグモ, ヒメアシナガグモ, シコクアシナガグモ, オノゴミグモ, タイリクアリグモ, ヒトリコゲチャハエトリ, シラホシコゲチャハエトリの9種は島

根県新記録. [島根県]

川野敬介 (2016) 島根県のムカデ類調査の現状. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 205–207. / 島根県から7科14種の唇脚類を記録。うち4種は島根県新記録。[島根県]

桐原真希 (2016) 鳥取県南部町で確認されたキクメハシリグモの記録. 山陰自然史研究, No. 12, pp. 19–20. / 鳥取県新記録 (中四国でも新記録) のキクメハシリグモの南部町での生息記録。[鳥取県]

皆木宏明 (2016) 2015年に島根県で初記録されたセアカゴケグモ (クモ目ヒメグモ科) の確認状況について. 島根県立三瓶自然館研究報告, No.14, pp 43–46. / 2015年7月1日に浜田市で初記録。浜田市内各地と出雲市で発見された。[島根県]

【甲殻類】

桑原正樹 (2016) 島根県宍道湖におけるウシエビの初記録. ホシザキグリーン財団研究報告. No. 19, pp. 5–7. / クルマエビ科の南方系の海産種であるウシエビを宍道湖で初記録。海産種だが汽水域・淡水域にも出現するとのこと。[島根県]

桑原正樹・辻井要介 (2016) 島根県宍道湖におけるミナミテナガエビの初記録. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 109–111. / 松江市末次町の宍道湖で宍道湖では未記録のミナミテナガエビ1個体を確認。[島根県]

長澤和也・河合幸一郎 (2016) 島根県産サケ科魚類に寄生していたチョウモドキ. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, p. 4. / 島根県高津川水系匹見川の支流である三の谷川で採集されたヤマメとアマゴから体表寄生のチョウモドキ (チョウ科) を記録。[島根県]

大澤正幸・桑原友春・倉田健悟 (2016) 島根県沿岸からの異尾類2種の記録. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 201–204. / 島根県沿岸から新記録となる異尾類十脚甲殻類2種の記録。ゴホンアカシマホンヤドカリとトゲカニダマシ。[島根県]

【軟体動物】

桑原友春 (2016) ダイオウイカを島根県出雲市で確認. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, p. 8. / 出雲市小伊津町小伊津漁港内で2015.12.10に採集されたダイオウイカの記録。[島根県]

桑原友春・佐々木興 (2016) 島根半島で得られたヒョウモンダコ. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, p.

12. / 出雲市坂浦町 (2013年) と松江市島根町大芦漁港 (2015年) で見つかったヒョウモンダコの記録。[島根県]

林 成多・片岡大輔・中原ゆうじ (2016) 島根県雲南市木次町ふるさと尺の内公園における貝類生息調査 (2014年). ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, pp. 241–252. / 木次町ふるさと尺の内公園から陸産・水生の貝類, 23科46種を記録。重要種多数。[島根県]

【その他の無脊椎動物】

林 成多 (2016) 隠岐島後でオオミスジコウガイビルを撮影. ホシザキグリーン財団研究報告, No. 19, p. 268. / 隠岐島後から外来種のオオミスジコウガイビルを記録。[島根県]

大澤貴紀・田中 篤 (2016) 土壌消毒の処理時期がナガイモのサツマイモネコブセンチュウ防除効果に及ぼす影響. 日本応用動物昆虫学会中国支部会報, No. 58, pp. 12–20. / ナガイモ「ねばりっ娘」の害虫, サツマイモネコブセンチュウの防除に関する研究。調査地は鳥取県北栄町西園の鳥取県園芸試験場 [鳥取県]

鳥取・島根両県内をタイプ産地として報告された種
今回はなし。